



The library news

夢の図書館

2019年9月30日発行

こんにちは。73代そして令和最初の夢高図書委員長です。
この書き方をどこかで見たことがあるなあと思った方は図書館だよりをよく読んでくれている方です。雨が降って外に出られないとき、図書館に来てみてはいかがでしょうか。ちなみにこの書き方は前図書委員長のものです。

(S.K)

図書委員のおすすめ本

「星の王子さま」

サン＝テグジュペリ 著 河野 万里子 訳

いちばんたいせつなことは、目に見えない
世界中の言葉に訳され、70年以上にわたってよみ
つがれてきた宝石のような物語。
砂漠に飛行機で不時着した「僕」が出会った男の子。
それは小さな自分の星をあとにして、いくつかの星
をめぐってから七番目の星・地球にたどり着いた王
子さまだった。

(2年 M.I)



「新世界より」

貴志 祐介 著

先日、図書館を覗いたら、新着本の中にこの作品があった。
人間の貪欲さをたくみに描いたこの作品は、やはり貴志さん
の手でしか表現できない。3巻物と少々長編ではあるが、
きっと一度読めば手が止まらなくなるだろう。

(3年 N.M)



「いなくなれ群青」

河野 裕 著



七草は人口2000人程の捨てられた人たちが集まる「階段島」へやって来た。島の人々は自分がなぜこの島に来たかは知らない。七草は特に疑問を抱くことなく平穏な高校生活をおくっていたが、幼なじみの真辺由宇との再会で状況は一変する。島から出るため謎を解こうとする真辺。七草や周囲の人は真辺に巻き込まれていく。やがて、明かされる真相は自分たちの青春に残酷な現実を突きつける。

映画化もされた、思わず涙してしまう青春ミステリー。

(2年 S.K)

「さよならの言い方なんて知らない」

河野 裕 著



あなたは架見埼の住民になる権利を得ました——。

高校二年の香屋歩の元に届いた奇妙な手紙。そこには初めて聞く街の名前が書かれていた。内容を訝しむ香屋だが、封筒には二年前に親友が最後に残したものと同じマークが。トーマが生きている？

手がかりを求め、指定されたマンションを訪ねると...

戦争。領土。能力者。死と涙と隣り合わせの青春を描く「架見埼」シリーズ、開幕。

(1年 G.A)